

# 巻 頭 言

## 「特集—精密機能部品・材料」に寄せて

常務取締役 上勢晴夫



ひところは日本中が金だ土地だと浮かれ製造業の肩身が狭い時期がありましたが、バブルの崩壊により改めてメーカーに対する社会の認識が変わり、物を製造し販売することの重要性が再認識されるようになってきました。

当社は、この物作りの基礎となる機械産業に長くたずさわり、これらの基礎部品の軸受、油圧、それらを加工する工具を製造、販売をしてきました。また、鋼材部門を持つ機械要素部品メーカーとして、日本の機械産業とともに事業を進展させてきました。

今回の不二越技報は、これらの製品の中より特に軸受、鋼材を中心に「精密機能部品・材料」の特集を組みました。当社は、1928年に当時ほとんど輸入に頼っていた機械工具の国産化をめざして設立し、1938年には高級特殊鋼の生産を開始し、1939年には、材料からの一貫生産により、軸受の生産を開始しています。

その後の日本経済の高度化、成熟化にともなうニーズの多様化に合わせ軸受の品種を増やし、また、静圧基礎機器を開発してきました。これらに使用する材料面での改良を目指し新素材を開発し現在に至っています。

転がり軸受についてみると、現在地球規模の企業間で品質、コストを激しく競合していますが、この中で、日本の軸受が国際的に高信頼性で評価され支持されているのは、日本の製鋼業による高品質な軸受鋼材に負うところが多く、当社もこの一翼を担っていると自負しています。

コンピュータ産業に代表される近年の技術革新はあたかもソフト開発だけが全面に出て、ハード、特にその機能を支える基礎となる要素を軽く見がちな風潮ですが、これらの革新の中に、各要素の開発、改良があり、当社の開発もこの確信に立って進めてまいりました。今回はその中の特徴のあるものを収録しました。

ころがり軸受については、高温で使用するセラミック軸受について吉岡先生の寄稿文を戴き、一般の軸受についての長寿命、高信頼性への取り組みをクラウニングの改良によって実施した例について示し、また、3件の新商品を紹介しました。

鋼材については旋削用工具の耐摩耗対策の解析の為のA E解析、新サーメット材の紹介と軸受鋼、工具鋼など熱処理炉で使用する耐熱合金について紹介しました。

私どもは今後も技術開発型企业として邁進するつもりであり、21世紀に夢ある企業に発展させることにより、皆様の一助になればと願っています。